

第一次「青樹」総目次一付 竹中郁書簡紹介

和 田 博 文

要 旨

本稿は第一次「青樹」総目次と、竹中郁書簡の翻刻で構成されている。第一次「青樹」は大正十四年一月に、天野隆一を編輯兼発行者として創刊された。昭和六年十二月まで全三五冊。前衛詩運動からレスプリ・ヌーボーへの移行期にあたり、この詩誌にも時代思潮は明確に現れている。美術と詩の交流のなかで作風を形成する天野隆一、ノイエ・ザハリヒカイトの詩人として頭角を現す山村順、海港市神戸を代表する福原清シネ・ポエムの方法で有名になる竹中郁、短詩運動から新散文詩運動へと移る北川冬彦、モダンなセンスを誇る北園克衛など、都市モダニズムを代表する詩人たちが顔を揃えている。

また発行者だった天野氏宅には、竹中郁の書簡が十四通保存されていた。そのうち十二通をここでは翻刻している。なかでもフランス遊学中に書かれた七通は、竹中の詩人としての自己形成に関わる貴重な資料である。

て創刊された。昭和六年十二月まで全三五冊。天野の自宅におかれた青樹社からは、引き続き七年六月から八年十二月まで、「麵麩」が十冊出ている。さらに九年四月からは、第二次「青樹」が創刊され、十二年六月の十号で幕を閉じた。トータルで五五冊になる。本稿はこのうち、第一次「青樹」の総目次を掲載した。

五五冊の刊行年月は、関東大震災後のモダン都市の形成期にあたる。二〇才前後の、京都美校・絵画専門学校の学生を中心に作られた詩誌は、次第にモダニティを色濃く漂わせ、都市モダニズムを代表する詩人たちが集結していく。竹中郁もそのうちの一人だった。本稿では竹中の、天野隆一宛書簡を十二通紹介した。これ以外にも二通が判明しているが、拙著「テクストの交通学」（平4、白地社）に図版を掲載したので、併せて参照していただきたい。

なお詩誌・書簡共に、天野氏宅に保管されていたものを、平成二年四月に三回にわたって調査し、撮影させていただいた。この場を借りて深く謝したい。

凡 例

- ① 総目次はタイトル・作者・頁数を記した。
- ② 作者名は旧漢字を、そのほかは旧仮名・新漢字を、原則として用い

解 題

第一次「青樹」は大正十四年一月に、天野隆一を編輯兼発行者とし

- ③ノンブルがない頁は前後から補足した。
- ④タイトルと作者がはっきりしている図版は目次に含めた。どちらかが不明な場合は末尾に注記している。
- ⑤発行所・住所・領価などは、変更がある場合などに限り、末尾に注記した。

第一次「青樹」総目次



第一号 大正十四年一月二十日発行

- さみしいこつけい
- 春をきく
- 冬の午后
- さびしき人格

山村順	2	1
天野隆一	3	3
天野隆一	3	4
柴山義雄	4	6

猫	松原二郎	6	7
夜光虫	宮島伸二	7	8
なみだの秋	小倉秋雄	8	9
平原	藤村新	9	10
後記	無署名	11	

★後記の頁に同人名を記載。松原二郎、天野隆一、藤村新、宮島伸二、三宅勝、小倉秋雄。
 ★編輯兼発行者は天野隆一。
 ★発行所は青樹社。京都市上京区田中上柳町八河合方。発行者の住所と同じ。
 ★領価二十銭。

第二号 大正十四年三月一日発行

- 雪の夜を吸ふ
- 黄昏の街から
- 終電車
- 赤き手袋
- 青いろの風船
- 記録された感情
- 廻転木馬
- 瞥見
- 乞食
- 深更に唱へる
- モデル室
- 灰色の夜
- 橙ひとり明るく
- 見はてぬ夢

天野隆一	1	1
天野隆一	1	2
天野隆一	2	2
山村順	3	3
山村順	3	3
柴山義雄	3	3
柴山義雄	4	4
柴山義雄	4	4
米谷子路	5	5
宮島伸二	6	6
宮島伸二	6	6
小倉秋雄	7	7
小倉秋雄	7	7
松原二郎	8	8
松原二郎	8	8

ローソクの灯	松原二郎	8
目を病みて	松原二郎	9
くたびれて	松原二郎	9
まよなかの	松原二郎	9
五月雨の	松原二郎	9
編輯後記	天野隆一	10
★発行所は京都詩人協会、住所の変更なし。		
★領価二五銭。		
★表紙にカット。		
第三号 大正十四年四月一日発行		
食後の散歩	富田彰	1
夜になる	富田彰	1
秋風吟	山村順	2
若き父の憂鬱	山村順	2
街をゆく	天野隆一	3
朝	天野隆一	3
星を喰べる法	柴山義雄	4
あらびあん風なお伽喃の一章	柴山義雄	4
かなしき安楽椅子	柴山義雄	4
憂鬱なる夜	宮島伸	5
新緑は育つ	左近司	6
深夜の出来事	山本豊三	7
春宵	堀内薫	7
試作	中村明	8
追憶	松原二郎	9
ずつと前Sが	松原二郎	9

雨の暗い日	松原二郎	9
冬の七時は	松原二郎	9
後記	天野生	10
第四号 大正十四年五月一日発行		
希望 おぼろげな船影	柴山義雄	1
黄いろい風船	柴山義雄	1
幼時追慕 追憶はまつしいわたしを貴族にする	柴山義雄	1
誰が知つてゐる	原理充雄	2
春	天野隆一	2
ノスタルジア	濱村正治郎	3
古典な都の街	濱村正治郎	3
春の呼吸	左近司	4
春の到来	左近司	4
春浅く	松原二郎	5
夜	松原二郎	5
水車小屋の翁	白井七郎	6
散歩 —安井龍に—	白井七郎	6
後記	天野生	7
★領価二十銭。		
★表紙にカット。		
第五号 大正十四年六月一日発行		
晩春	天野隆一	1
晴朗	天野隆一	2
おさな子とその母に	山村順	3

第六号 大正十四年十月一日発行

童貞	柴山義雄	4	5
お話しにならないある恋物語り	柴山義雄	5	
心情畸形	遠地輝武	6	
渡船小景	白井七郎	6	7
春日	三宅勝	8	
芳香な雨上り	左近司	9	10
春の田園小曲	左近司	10	
後記	天野生	11	

第六号 大正十四年十月一日発行
さみしき景

医学風物詩 古郷の話

学者よ

私は

薄暮

雨

夏

炎天のカンナ蟲

夏の別荘

月と女と楽器

古風な恋愛観

午后(或る日秋は来てゐた)

樹蔭

編輯後記

★後記の頁に「青樹の人々」を記載。岩井信實、富田彰、山村順、福田豊四郎、天野隆一、左近司、柴山義雄。

★非完品。

第七号 大正十四年十二月一日発行

蜘蛛は踊る 詩劇「恋」の序幕―舞踊詩	岩井信實	1	2
秋	天野隆一	3	3
晚秋薄暮	天野隆一	3	4
紫陽花	天野隆一	4	
秋	天野隆一	4	
月夜	天野隆一	4	
月夜ながらの雨	富田彰	5	
映る微笑 ― A Mademoiselle Centi ―	富田彰	5	6
ほのかなる秋	山村順	7	
厚顔なる夜	福田豊四郎	8	
茶寮にて	左近司	9	
秋を想ふ	左近司	10	
編輯後記	無署名	11	

第八号 大正十五年八月十五日発行

麝香連理草

挽歌 とほく巴里なる一柳信二におくりわれら

Nocturnal-Dance を悼む

晚春

夜桜

初夏風光 海への逕

測量作図

失題

幻想

春の情事

富田彰	1	
富田彰	1	2
天野隆一	3	
天野隆一	3	4
天野隆一	4	
石川善助	5	
石川善助	5	6
山村順	7	
山村順	7	8
左近司	8	
左近司	9	

健康	左近司	9	朱い蟹	三輪健	10
春の歩調	左近司	10	田舎の別荘	三輪健	10
夜	左近司	10	向日葵	三輪健	11
第九号 大正十五年七月二十日発行			浪の風景	藤村新	12
雲雀	竹内勝太郎	2	楽しき晚餐	藤村新	13
ある日	天野隆一	3	夏富饗宴	北口薫	14
初夏・宇治にて	天野隆一	4	雨日	福田豊四郎	15
樹陰	左近司	5	後記	無署名	17
梅雨	左近司	6	★表紙と裏表紙にカット。「裏表紙素描は前号と同じくダビッド、ブルリュウク氏筆である」と、「後記」に記載。		
窓よりの展望	富田彰	7	第十一号 昭和二年四月一日発行		
休暇前第三日	富田彰	8	海港春宵	天野隆一	1
Baiser.	山村順	9	倦春	天野隆一	2
暮るる春	山村順	10	秋蘭	天野隆一	2
後記	天野隆一	11	陽気な夢	山村順	3
★表紙と中扉にカット。			敵島所見	左近司	4
第十号 大正十五年八月二五日発行			海	左近司	5
海浜風光	天野隆一	1	花	左近司	6
新秋	天野隆一	2	偷盗の食卓	富田彰	7
早春迎日	天野隆一	3	黎明の歌	竹内勝太郎	8
あいびき	山村順	4	淀風光	相澤等	9
花	山村順	5	罌硝子	相澤等	11
夕立	富田彰	6	薔薇の寝床	相澤等	12
小曲	富田彰	7	後記	天野隆一	13
哀恋	左近司	8	★中扉に同人名を記載。天野隆一、相澤等、左近司、富田彰、山村順。	14	
別離	左近司	9	★領袖二十銭。	15	

★表紙と中扉にカット。表紙画は福田豊四郎。

第十二号 昭和二年五月十日発行

海月	相澤等	1
水窓	相澤等	2
誰がモダンか	山村順	3
春情	左近司	4
花見	左近司	5
海水浴場	天野隆一	6
木枯	天野隆一	7
春A	天野隆一	7
春B	天野隆一	8
後記	天野隆一	8
★発行者は相澤等。編輯者は天野隆一。		10
★表紙カットはポベルマの「街」。中扉カットは福田豊四郎。九頁と十一頁にもカット。		
★美術劇場第一回公演の広告掲載。顧問は今東光、山本修二、野長瀬		
晩花。		

第十三号 昭和二年十二月五日発行

惜春編 I おとずれ	竹内勝太郎	1
II 散歩	竹内勝太郎	2
詩経	南江二郎	3
ふらんねるの傘	相澤等	5
土曜日	相澤等	6
西国の港	天野隆一	7
転居	天野隆一	8

苦惱の釣針

秋ぞら

愛憐

後記

★表紙の画はポベルマ、中扉の画はピカソ、四頁のカットはロオト。

七頁の「西国の港」は大正十五年秋の大阪市展で大阪時事賞を受賞。

★『年刊京都詩集』（京都詩人協會発行）の広告掲載。

第十四号 昭和三年一月二十日発行

二階のベコニヤ	竹中郁	1
風景	山村順	2
わかれ	山村順	3
女	天野隆一	4
秋晴れ	天野隆一	5
続惜春編 I 蛙	竹内勝太郎	6
II 鶯	竹内勝太郎	7
III 燕	竹内勝太郎	8
手酌	竹内勝太郎	9
薄暮	錦光山雄二	10
古郷は帰り来る	錦光山雄二	11
浪漫説	左近司	12
僕の人生観	左近司	13
日曜日	左近司	14
峡湾	相澤等	15
やるせなき・あらべすく	相澤等	17
公園	相澤等	18
同乗	富田彰	19
	富田彰	20
	富田彰	21
	富田彰	22

雑記	天野隆一	23	★「雑記」の次頁に同人名を記載。天野隆一、相澤等、錦光山雄二、左近司、山村順。
★表紙の画はガラニス、中扉の画はピアツレ。六頁の「秋晴れ」は大正十五年春の大阪美術展覧会出品作。			
★十六頁は南江二郎・相澤等・左近司・天野隆一の写真掲載。			
★竹中郡「枝の休日」、山村順「出発」、天野隆一・相澤等・左近司「公爵と港」の広告掲載。			
第十五号 昭和三年二月十日発行			
野州・塩原温泉にて	天野隆一	1	
中禅寺湖畔にて	天野隆一	2	
陸前・松島にて	天野隆一	3	
夢	天野隆一	4	
若人	天野隆一	4	
きぬぎぬ	南江二郎	5	
女	口オト	7	
曇り日	福原清	8	
冬の郊外の午後	福原清	9	
暗い昼	福原清	10	
箱根行	山村順	11	
思慕	山村順	12	
人物三人	グロース	13	
優美な食欲	錦光山雄二	14	
望遠鏡のレンズ	錦光山雄二	15	
魚	デュツフキ	16	
冬至	相澤等	17	
雪のいくさよ	相澤等	17	
楽器山	相澤等	18	
旅づかれ	相澤等	18	
月曜日	相澤等	19	
花の精気	左近司	21	
雑記	天野隆一	22	
★表紙画はコクトオ、中扉の画はシュリンプ。七頁の「女」、十三頁の「人物三人」、十六頁の「魚」は図版。二十頁にドイツの版画を掲載。			
★「公爵と港」の広告掲載。			
第十六号 昭和三年三月十日発行			
華やかな散歩	錦光山雄二	1	
あすふわるとのうへに雪がふる	錦光山雄二	2	
春	左近司	3	
小曲	左近司	4	
池	兒玉笛磨	5	
壁にも	兒玉笛磨	6	
白暮	相澤等	8	
朧夜	相澤等	9	
葛の葉	相澤等	10	
紀州湯崎海岸	相澤等	10	
——左近司君におくる			
——此の詩篇を同伴者左近司・中村明二氏に贈る			
わかれ	天野隆一	12	
晴天	天野隆一	13	
同人語	天野隆一	14	
山村順、相澤等	天野隆一、左近司、錦光山雄二、	15	

★表紙の画はデユフキ、中扉の女の画はロオト、七頁の牛の画はピカソ、十一頁の鯉の画はデユフキ。

★非売品

★『公爵と港』の広告掲載。

第十七号 昭和三年五月一日発行

天魔 I 雪女

II 天女

那智丸にて

回顧

夜桜

字品港

風のあしあと

あなうら

『公爵と港』感想

『公爵と港』の人たち

雑記

★表紙にカット。中扉の画は天野隆一「公爵と港」、八頁の「字品港」は図版、十一頁の画はグロオス。

★『公爵と港』の広告掲載。

第十八号 昭和三年六月一日発行

理髮師の歌(オーブリ・ビヤズリ)

学生帽

追慕

光の下

同じく

倭青茅

倭青茅

天野隆一

左近司

左近司

左近司

相澤等

相澤等

外山卯三郎

竹中郁

天野生、相澤等

「公爵と港」、八頁の「字品港」

南江二郎訳

天野隆一

天野隆一

北川冬彦

北川冬彦

北川冬彦

わが魂の村人

幻燈—ときには蠅蠅絵にたまたま魔人の臉

心のきしむ日

疫病風景

閑なる月

こひひと

蛙

『公爵と港』一盞

後記

★「後記」の頁に、青樹執筆者(一号、十八号)氏名を掲載。三三名。

★表紙、中扉、四頁、十一頁にカット。

★『公爵と港』、南江二郎訳著『イエーツ舞踊詩劇集』、外山卯三郎『情念詩集』の広告掲載。

第十九号 昭和三年七月一日発行 竹内勝太郎送別記念号

極地探険

わたしは想ふ

月蝕(アイロクオイスのインデアン伝説による)

愁しい草笛

別れに祈る — 竹内勝太郎氏に

笑ふ鳥

田園の風景

無風

水囊

蟹

血脈のある宝石(あなたの思ふことならなんでもかかへてくれる)

明石染人

倭青茅

相澤等

相澤等

左近司

左近司

櫻井光男

竹内勝太郎

天野生

竹内勝太郎

竹内勝太郎

左近司

これは世にもふしぎな宝石の一種)	相澤等	13	14
真珠	相澤等	14	
早春の手品師	天野隆一	15	
花氷	天野隆一	16	
歌舞伎の発達と「助六」(一芸術研究生の手帳から)	竹内勝太郎	17	23
後記	天野生	24	
★編輯兼発行者は天野隆一。			
★表紙にカット。中扉の画は船川未乾「アヘンの花」。			
★南江二郎「人形劇の研究」「イエーツ舞踊詩劇集」、半井康次郎「母」、			
「情念詩集」の広告掲載。「後記」の頁で、福田正夫『光の翼』を			
紹介。			
第二十号 昭和三年十一月一日発行			
奥州平泉	天野隆一	1	2
寧楽秋郊	天野隆一	2	
にわほこり	相澤等	3	4
暑中休暇の夜	相澤等	4	
公園の秋	依青茅	5	
白露虫	依青茅	5	6
まどろみ	依青茅	6	
玉蜀黍	青旗青太郎	7	
巨大な空の下に蜘蛛の巣がある	錦光山雄二	8	
杏掛にて	奥村厚一	9	
望郷―瀬戸の海に月影ほのぼのと宿るころ私はよく平家の			
落人の夢を見る	櫻井光男	10	12
ひとり想ふ	左近司	13	14
田園詩品	左近司	14	
雑記	天野生	15	
★表紙、中扉、一〇四頁上段にカット。			
★「詩華集・詩経」(京都詩話会編)の広告掲載。			
第二一号 昭和四年一月一日発行			
ふるさと	左近司	1	2
情艶	依青茅	3	
晩秋	依青茅	4	
夏至すぎで	相澤等	5	6
みづかきのある少女	相澤等	6	7
月の出	奥村厚一	8	
曇り日	天野隆一	9	
秋の陽ざし	天野隆一	10	
晴天二月	天野隆一	11	
晴天三月	天野隆一	12	
四月	天野隆一	13	
「詩経」読後感	福原清	14	
雑記	天野生、竹内勝太郎、左近司、相澤等。	15	
★表紙、中扉、一〇二頁上段、「雑記」の頁にカット。			
第二二号 昭和四年二月五日発行			
神戸港之図	天野大虹	2	
西国の港	天野大虹	3	
寧楽秋郊	天野大虹	4	
乗馬	相澤等	5	
雲	相澤等	6	7

★二十頁に、青樹小劇場の広告掲載。「商船テナシテイ出演の天野隆

一相澤等」の写真も掲載。

★『詩経』第二輯（京都詩話会編）の広告掲載。

第二四号 昭和四年五月五日発行

明日	竹内勝太郎	1	2
森の復活祭	竹内勝太郎	2	3
田園調	竹内勝太郎	3	4
春・海岸通	天野隆一	5	
夜・海岸通	天野隆一	6	
海近し	左近司	7	8
まぼろしの暈	俵青茅	9	
迷夢	俵青茅	9	
売笑婦	俵青茅	10	
化粧室の女	相澤等	10	
ひとがあ・あらん・ぼう氏	相澤等	11	
有害な霧	相澤等	11	12
花やかな月夜	相澤等	13	
LA CREATION DE TOSHIO UEDA	上田敏雄	15	
マラソン選手	安西冬衛	16	
土耳古風呂	安西冬衛	16	
詩人の嘆き	小林籟	17	
街頭初夏	小林籟	17	
早春	山村順	18	
短詩四篇	間司恒美	19	
広告燈	間司恒美	19	20
夕ぐれ	間司恒美	20	
蛇	間司恒美	20	

インク壺

詩経(2)―京洛の詩人に贈る―

REVUE 詩経感想

後記

★表紙・中扉・十四頁に画を掲載。「本号挿入の画はすべてジャン・

コクトオの著書 LE GRAND ECART 中の著者筆の挿画である」と「後

記」に記載。五十三頁、十五頁二十頁の上段にカット。

★創刊号以来の主なカットの筆者と数を、「後記」に記載。

★「REVUE」の頁に、青樹社装幀部の広告掲載。

★『詩経』第二輯、「歌垣」、尾形龜之助「雨になる朝」、安西冬衛「軍艦茉莉」、渡邊衣子「泉に通ひくる女」、明田彌三夫「足跡」、折戸彫夫「化粧室と潜航艇」、詩雑誌「アラバスク」の広告掲載。

第二五号 昭和四年八月一日発行

らたい時候	相澤等	4	5
円垂帽と毛髪	天野隆一	6	
S.S. "EMPRESS OF ASIA"	天野隆一	7	
たそがれの風景	俵青茅	8	9
母の故郷	左近司	10	11
海に送る詩	左近司	11	
青茅の歌	南江次郎	12	15
明石染人氏著「魂の傀儡師」所感	相澤等	15	
關澤源治君詩集『起重機』に就て	俵青茅	16	
演劇狂時代	山下元廣	16	
エピソード	天野隆一	16	17

★表紙と中扉にカット。四十一頁上段にカット。

★二―三頁に写真掲載。アトリエ座上演写真が三葉、青樹小劇場上演

一匹の毛猿	左近司	6	プラボー「軽気球」	山村順	10
唇とその食欲	俵青茅	7	青樹38号あ・ら・もうど	相澤等	11
賭(或は恋ともみる)	Veullieg ne dire que "oui" ou "non"	8	夜とその屈折する現象	相澤等	12
春の灯	俵青茅	9	蛾	藤井芳	13
神港懐古	天野大虹	10	夢の演間	藤井芳	13
街のフィルム	天野隆一	11	女ごころ	俵青茅	14
雨のフィルム	相澤等	12	虚	俵青茅	15
白の断面	相澤等	13	喫煙室 二拾坊主通信B	H・A	16
官能装置	相澤等	14	舞踏学校	R・A	16
六号雑誌 二拾坊主通信	相澤等	15	★中扉の画はピカソ「PORTRAITS (DESSIN)」。		
エビロオク	天野隆一	15	二頁に写真を一葉掲載。		
★中扉の画はピカソ「頭」。			十頁に俵青茅の写真掲載。表紙・十一頁・「喫煙室」にカット。四		
★興付の次頁に、青樹社装釘部の広告掲載。			〜八頁、十二〜十五頁の二段にカット。		
★『詩経』第四輯(京都詩話会)の広告掲載。			★奥付の次頁に、『詩経』第四輯と青樹社装釘部の広告掲載。		
★『詩経』第四輯(京都詩話会)の広告掲載。			★「AIR POCKET」、一柳信「軽気球」、竹中郁「ラグビー」の広告掲		
			載。アトリエ座上演表掲載。		
第二十九号 昭和五年七月一日発行					
休戦と肉情 ー或はみなさんにはバアドン・ミイー	セイツ・タワラ	2	第三十号 昭和五年九月十日発行		
彼の自画	左近司	3	「青樹」三十号に送る手紙	竹内勝太郎	1
四つの煤	竹中郁	4	ハヤク!	相澤等	3
直線と曲線	天野隆一	5	彼氏とドア	相澤等	4
し氏の人生観	天野隆一	6	軟い落下：主して彼女の恋に関する：	相澤等	4
拳闘	山村順	7	墓地	相澤等	5
陽気への嫉妬	左近司	8	月の出	相澤等	5
			魚のまぶた	相澤等	6
			訣れ	俵青茅	7
			ふたりの海浜	俵青茅	8
			地球の表	左近司	9

森・楽園

霖雨

秋

白い頁

詩経一九三〇年評

青樹執筆者氏名 大正十四年一月創刊 第一号—第三十号

喫煙室 青樹30号にパンザイを綴る

塩の感想

●●●●

青樹万歳

★中扉に左近司の画を掲載。二頁と「喫煙室」にカット。三〜十二頁の上段にカット。

★「ラグビー」の広告掲載。

第三一号 昭和六年一月一日発行

祝盃—祝盃!

詩集「雪女」の記

詩集「水兵と娘」の色と匂ひと

詩集「水兵と娘」への感想

「雪女」を読み

「雪女」寸感

秋の光より

航行

人生

くらげ

懇懇な柔軟

左近司 10

山村順 11

天野隆一 12

天野隆一 12

XYZ 13

セイジ・タワラ 14

相澤等 15

左近司 15

富田彰 15

天野隆一 15

天野隆一 1〜2

相澤等 2

無署名 2

俵青茅 3

山村順 4

左近司 4

左近司 5

左近司 5

俵青茅 5

山村順 6

山村順 6

藤井芳 6

相澤等 7

スエズ

ケーブタウン

噴水

ハコネ

眉のない月夜

詩集「水兵と娘」評

喫煙室 近情報告

結婚期を脱した男

身辺雑記

エヒロオグ

★表紙の画はクレイ「DESSIN」。一頁にレジエの画、三頁にデユフイの画、五頁にラボルドの画。六頁の画はコクトオ「画家ジャン・ユウゴ」。七頁の画はMAX BURCHARTZ「PUPPENKOPF」。九頁にピカソの画。「喫煙室」にカット。

★青樹社出版詩集自録を掲載。山村順「水兵と娘」、俵青茅「雪女」、佐東一郎「航空術」、城左門「近世無類」の広告掲載。

第三二号 昭和六年三月一日発行

アペリチフ

FOR GET ME NOT

電話

文明批評

ふたたび電話

歴史上の智略

所有

ジアン・コクトオ

相澤等 7

相澤等 8

相澤等 8

相澤等 8

深谷延彦 8

岩佐東一郎 9

相澤等 10

左近司 10

俵青茅 10

天野隆一 10

竹中郁 1

シネマ	ハウス	山村順	2	ミナト女の昼と夜	相澤等	2
冬眠	天野隆一	3	旅のうた	福原清	3	3
動物	天野隆一	3	日なが	福原清	3	3
秘談	天野隆一	3	花衣裳	依青茅	3	3
雪景	天野隆一	3	はなびら	依青茅	3	3
虚の律動に呻く	依青茅	4	春・点視	左近司	4	4
時間	依青茅	4	雨中風俗	山村順	4	4
白色	長江道太郎	5	雨	山村順	5	5
冬空	藤井芳	5	夜航	山村順	5	5
時	藤井芳	5	超特急	山村順	5	5
冬と女	藤井芳	5	天候	一柳信二	6	6
大いなる彼の隣人	左近司	6	空客と將軍	一柳信二	7	7
人造人間とその技師	左近司	6	三月	天野隆一	8	8
村落事情	相澤等	7	S.S. "EMPRESS OF ASIA"	天野隆一	8	8
「墮天馬」を読みみて	山村順	8	アラモオド	天野隆一	8	8
「航空術」を読みみて	天野隆一	8	花水	天野隆一	8	8
YOKOHAMA事情	相澤等	9	五月の楽書	天野隆一	8	8
「国際都市」に就て	相澤等	9	★七頁の画はスゴンザック「ニテッサン」。表紙にカット。九頁の汽船の写真は「S.S. EMPRESS OF AUSTRALIA IN KOBE」。十頁目は白頁。	依青茅	11	11
青樹室	天野隆一	11	第三四号 昭和六年九月十日発行			
★一頁の画はゼーワールド「ツッサン」。五頁の画はガラニス「ニテッサン」。八頁の画はロオト「ニテッサン」。表紙と奥付の頁にカット。			帆船	福原清	2	2
★領価は30 SEN。			海峽	福原清	3	3
★「雪女」と「水兵と娘」の広告掲載。			クロスワード	福原清	3	3
第三三号 昭和六年六月一日発行			秋	天野隆一	5	5
月はどういふ時に暈をさすか?...ホンモクホテル街:			挽歌 冷酷な音楽	天野隆一	5	5
相澤等	1	2	氷の檻	安西冬衛	6	6
				安西冬衛	7	7

失心	左近司	8
風	相澤等	10
独逸的な雲	渡邊修三	12
楽器	山村順	14
自殺	山村順	15
愛欲	依青茅	16
恋の麻雀—好牌先行	依青茅	17
牀—A. R. Amaro	笠野半爾	18
競馬	藤井芳	19
梅雨	藤井芳	20
海岸傘とプレス・ボタン	相澤等	20
喫煙室	天野隆一	22
身辺雑記	依青茅	27
★表紙・中扉・「喫煙室」・奥付の頁にカット。		
★京都祇園花見小路のバー「だんご村」の広告掲載。		
第三五号 昭和六年十二月一日発行		
花環	南江二郎、外山卯三郎、竹中郁、岩佐東一郎、川路柳虹、百田宗治、竹内勝太郎、福原清、佐藤惣之助、近藤東。	1
花花	春山行夫	2
腐敗した家具の中で	左近司	3
日の終り	村野四郎	4
広告	天野隆一	4
美しい火夫	竹中郁	5
カイロの旅宿	竹中郁	5
飛行	山村順	6

富士	山村順	6
狼煙	依青茅	7
恋の船出	依青茅	8
懷疑	喜志邦三	8
当今横浜山手風景	相澤等	8
曇天	相澤等	9
詩二篇	相澤等	9
京都風景—東七條	藤井芳	10
青樹掲載作品表	中田宗男	10
同人語	無署名	11
消息	依青茅・相澤等・左近司・天野隆一	12
★表紙・中扉・七頁・十頁・十一頁・広告頁にカット。		
★青樹社出版・発行目録を掲載。天野隆一『青い旗』、左近司『思慕哀吟』、岩井信實『死亡診断書』、『歌垣』、大村利一『藤の実』、『詩経』I〜IV、『公爵と港』、『雪女』、『水兵と娘』を広告。		

竹中郁書簡紹介

(一)年月日不明(推定昭和三年)、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町河合氏方 天野隆一君

消印 HONG・KONG

今日、香港へ上陸。

青々とした樹々をみて、すゞろ、描けぬ絵心さへ動いてきました。自動車で二十八哩の島の周りをドライブし、ホテルの前でカアをとめて、紅茶をすったのは、とんと、青樹詩人好みのところでした。

青樹詩人はどうしても、一度は来なければならぬところ。竹中郷

(2) 年不明(推定昭和三年) 八月二三日、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町河合氏方 青樹社天野隆一君

消印 不明

青樹をありがたう。ますく御元氣御活躍らしくよろこんでゐます。こちら、味気ない生活でくろしい。日本がよろしい。いつか堀口さんここでみたコクトオの画集、その他新作のもの入手しました。帰つて羅針をだす時使用しませう。トミタ君、航海表といふのを出した由、知つてますか。

パリは涼しい、もう秋です。

詩がかきたい。日本茶でヨウカンつまみたい。

八月二十三日

パリ 竹中郷

(3) 年不明(推定昭和三年) 十月七日、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町八河合方 天野隆一君

消印 不明

巴里の九月は日本の十一月だ、さむい日は重い冬外套をきなければならぬ。京都の秋を思ふと耐らなく帰りたい、あの清澄さに、いまのいま触れたい。竹内氏は来巴されたと、先日、日本字新聞にのつてゐた。僕はこの月の中ごろ、ベルジウム、オランダを旅してくる、レムブラント、ウンデルミール等を見るためにだ。

伊太利旅行は都合でやめた。パリのセゾンで、音楽や芝居をみる事にした。

日本の詩界、かへつたらどうなつてゐるか、ちよつと楽しみだ。山

村君元氣ですか。表の絵の女二人、モンパルナス辺の、まあ淫売ですわ。

来秋にはかへりませうか。

十月七日

竹中郷



(4) 年不明(推定昭和四年) 二月一日、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町河合方 天野隆一様

消印 不明

冬の巴里のスプリーンはたまらぬので、十二月末から、この明るい海の生活をしてゐます。神戸にゐるのと大差ない気で。このカーニユは須磨に当るとすると、ニイスが神戸で、ちよつとした買物はニイスまで行きます。

「青樹」がクオタリーになつて、立派に現はれることをまつてゐます。

うまい菓子がくいたいので、菓子のうまい京都を思ふこと切りです。謝肉祭が昨日からはじまりました。この十日ごろが、花合戦、コンフェツチ合戦です。

小生はパテベビで、いいスプニールをつくりつつあります。

二月一日

竹中郁

(5) 年不明(推定昭和四年) 四月二三日、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中下柳町河合氏方 天野隆一様

消印 不明

巴里から三十時間余の汽車の旅をして、スペインのマドリッドに來てゐます。マドリッドを中心とした絵画の巡礼を目的としてやつて來たのです。來て驚いたのはベラスケスの立派な作品がふんだんにあることでした。

ベラスケスはゴヤどころの騒ぎではありません。全く驚きました。

グレコはエスコリアルと云ふところにある一枚が立派です。次にトレドにある一枚。闘牛は只今がセゾンで、相当いいと云ふのをみました。牛がすごい吐血をするところは、正視に耐えないところですが、それ以外は思つてゐた程すこくもなく、ゆるいテムポのものです。花やかさ六分、哀愁四分です。

マドリッドへ來て、はや六日。スペイン語を三三十個おぼえました。

四月二十三日

竹中郁

(6) 年不明(推定昭和四年) 五月八日 天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町河合氏方 天野隆一様

消印 PARIS AVENUE D'ORLEANS / 8

MAIL 13・15

「詩経」ありがたう。御活躍羨まし。このごろ、何もしないである辭に、変に忙しい気がする。なにも書きたくもない。五月と云ふのに、何しろ寒い日が多いので、浮かれ歩くと云ふわけにも往かない。

エスパニヤで求めてきたカステネットをけいこして、大分上達しました。

相沢君によるしく。

五月八日

竹中郁

(7) 年不明(推定昭和四年) 六月十三日、天野隆一宛。

絵葉書、ペン書き。

上 京都市上京区田中上柳町河合氏方 天野隆一様

消印 PARIS AVENUE D'ORLEANS / 13

JUN 19・15

先日、大使館へ行つたら、十二月ごろに到いたらしい、君からの原稿依頼の手紙をみつけました。それで巴里号をつくる時の編輯後記のわけがよめました。あのころ、南仏にゐても、手紙は廻つてくる筈なのですが、年末でまぎれて、大使館に半年もゐたわけです——と推察する。

春のセゾンも終りに近づいて、おつつけ寂しい、いたづらに時間のながい夏がきませう。今年は去年より涼しくて助かつてゐますが、七月八月がどうですかしら。

この春のセゾンはずる分活躍して見学しました。もう年末には船にのらなくてはいけなるので、この秋のセゾンを思ひ切り泳いでかへるつもりです。在巴、実にたつた一ヶ年とちよつとですが、他人の三四年のエツフェはたしかに挙げてゐます。——と自慢ときましよう。京都派の精進をいのつてゐます。

山村君はどうしてみますのやら。
六月十三日

竹中郁

(8) 昭和二六年〇月二九日、天野大虹宛。

葉書、ペン書き、Takemakaと署名した自筆スケッチ入り。

表 京都市上京区紫竹西高縄町六六 天野大虹君

神戸スマ竹中郁

消印 須磨/26・〇・29 〇—6



「雲の耳」ありがたう
山村夫人の死の通知をもらった
なににしても長生きが肝心
こないだ元町で個展をひらいた
半分あかき生活をしてゐる
たの
しい

(9) 昭和四四年七月三日、天野大虹宛。

葉書、ペン書き、色鉛筆のカット入り。

表 京都市北区紫竹西高縄町六六 天野大虹様

神戸市須磨区離宮前町二ノ一 竹中郁

消印 須磨/44・7・3 12・18

三十七年前のしやしんをみて転有感

もつと長生きしましょうよ あの場合にはドンバル(心斎橋から北へ二丁位のところにあつた)だつたか それとも北浜のあたりだつたか 珍しい貴重な記録がのこつていて あんたところはミージアムだ

× 京都の北 花背の方へーべん行つてみたい この秋にはとねらつて
ある

(10) 昭和四九年十月二二日、天野隆一宛。

葉書、ペン書き、色鉛筆のカット入り。

表 京都市伏見区醍醐烏橋町一五―九 天野隆一兄

神戸市須磨区離宮前町 竹中郁

消印 須磨/49・10・22 12―18

暖地へ御転居の事大いに健康になられるでしょう
小生八月一ぱいをヨーロッパ駆足につかひました くだびれもせず
若返りをしました 若いときに面白くなかつた絵がこんどは面白くみ
えたりして老年というもののふしぎをかんじました もうーべん行く
気が起りました 竹中郁

(11) 年月日不明、天野大虹宛。

葉書、ペン書き、色鉛筆のカット入り。

表 京都市伏見区醍醐烏橋町一五―九 天野大虹様

神戸市須磨区離宮前町二一―一七 竹中郁

消印 須磨/年月日不明、18―24

珍しいおいしいものたんといいただきました

ごはんをたべすぎそうや

京にはおいしいもんがかくれているなあ

(12) 昭和五六年三月十四日、薬師川虹一・天野隆一宛。

葉書、ペン書き、色鉛筆のカット入り。

表 京都市左京区下鴨東森ヶ前一 薬師川虹一様 天野隆一様

神戸市須磨区離宮前町二一―一七 竹中郁

消印 須磨/56・3・14 12―18

RAVINE くわしい詩集録をみて年月の長さを思起します

私も昨年秋フェルペスを左顔に病みましたが今は大たい元通り体重

も五十六キロまで戻りました。

A general table of contents of the first Seiju and the reprint of letters
from Iku Takenaka

Hirofumi WADA

Summary

This article consists of a general table of contents of the first Seiju and the reprint of letters from Iku Takenaka.

The first Seiju was started by Ryuichi Amano in Jan.1925 and continued until Dec.1931, amounting to 35 issues in total. The period of this poetry magazine coincides with the transition period from the avant-garde poetry movement to l'esprit nouveau movement. It is interesting to note that the trends of the times are clearly reflected in this magazine. There appear such urban modernist poets as Ryuichi Amano who creates the original style by intermixing arts and poetry, Jun Yamamura who distinguishes himself as a Neue Sachlichkeit poet, Kiyoshi Fukuhara who represents the marine city Kobe, Iku Takenaka who is famous for cine poem methods, Fuyuhiko Kitagawa who transfers from the group of short poem movement to the group of new prose poem movement, and Katsue Kitazono who is noted for his modern sensitivity.

Ryuichi Amano preserved 14 letters from Iku Takenaka, 12 of which are reprinted here. 7 of these, written during his stay in Paris, seem to be especially of value as showing the process of establishing his identity as a poet.